

2016年11月4日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

## 韓国のゴッホ イ・ジュンソプと日本人の妻

6日(日)



短い生涯に多くの作品を残し、「韓国のゴッホ」とも呼ばれる国民的画家、李仲燮（イ・ジュンソプ）と日本人の妻、山本方子さん（95）が紡いだ家族愛の物語。日本統治時代に現在の北朝鮮地域に生まれた李は、東京で西洋画を学び、山本さんと出会いました。日本の敗戦直前、朝鮮中部・元山で2人は挙式。しかし朝鮮戦争の勃発により運命は暗転します。韓国側に避難した後、山本さんと幼い2人の息子は生活苦と栄養失調で日本への帰国を余儀なくされました。単身韓国に残った李は、家族との再会を夢見て作品を生み出すものの、日韓に国交はなく、極貧の中で生涯を終えました。離ればなれとなった家族はどのようにして、そのぬくもりをつないだのでしょうか。今では億単位の値がつく李の作品ですが、彼の人生は韓国の近現代史の悲哀とも重なります。



日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい。

## 「ちょいワルおやじ」の次のトレンド

### 「かっこいいジジイ」になるには

夕刊特集ワイド 7日(月)



少し前に「ちょいワルおやじ」という言葉がはやりました。遊び心を忘れず、流行にも敏感な中年男性は確かに素敵です。さて、今度は「かっこいいジジイ」に注目が集まっています。例えば、ノーベル文学賞に決まったボブ・ディラン。「やんちゃなジジイ」のファッションやライフスタイルを追求する雑誌も登場しています。どうしたら「いい感じのジジイ」になれるのでしょうか。55歳男性記者が「指南役」を訪ね歩きます。

## 閣議決定へ！ 戦後「安保政策」の大転換

### 「駆け付け警護」をどう考えるか

オピニオン面 [論点] 10日(木)

3月に施行された安全保障関連法で可能となった自衛隊の「駆け付け警護」。南スーダンの国連平和維持活動（PKO）に参加している部隊にその新任務が閣議で付与される見通しです。けれども現地の治安情勢は厳しく、戦闘に巻き込まれる可能性も指摘されます。憲法との絡みで慎重論が根強いとはいえ、国際協力は喫緊の課題です。日本はどう向き合えばいいのか。

時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。



## 新成人の消費者トラブル

くらしナビ面 11日(金)



民法の成人年齢を現行の20歳から18歳に引き下げる改正案が来年の通常国会に提出される見込みです。今までは悪質な契約から保護されていた18～19歳の子どもが、新成人になってマルチ商法などのトラブルに遭う恐れが出てきます。高校の教室で消費者被害が広がり、学校現場が混乱する可能性も。改正の課題を探り、新成人が気をつける点を紹介します。

## 通学路の安全を考える

くらしナビ面 12日(土)

登校中の小学生が巻き込まれる交通事故が後を絶ちません。横浜市の市道で10月28日、軽トラックが突っ込み、小学生8人が死傷しました。2日には、千葉県八街(やちまた)市の国道で2トトラックが突っ込み、小学生4人が重軽傷を負いました。全国各地で通学時間帯の児童・生徒の安全指導強化や、通学路の点検などを実施していますが、こうした事故をなくすことはできていません。通学路の安全について改めて考えました。



## 加藤登紀子×大友良英対談



おんなのしんぶん 7日(月)



「あまちゃん」のテーマ音楽で知られる大友良英さん=写真=(は、ノイズミュージック、実験音楽、フリースジャズ、映画音楽と幅広いジャンルで活躍するミュージシャンです。幼少期から親しんできた音楽やボブ・ディラン氏のノーベル文学賞受賞について加藤登紀子さんと語り合い、「右向け右!」の号令で全員が一斉に動くような社会の姿についても議論します。